

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

十勝岳で、7月4日21時25分頃から継続時間約45分間の振幅の小さな火山性微動が発生しました。火山性微動の発生以降、振幅の小さな火山性地震がやや増加しています。

十勝岳では、2021年頃から62-2火口の熱活動が活発な状態が続いていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

<噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続>

○活動概況（図1～5）

4日21時25分頃から継続時間約45分間の振幅の小さな火山性微動が発生しました。微動に同期して、62-2火口方向が上下するわずかな傾斜変動を観測しました。火山性微動の発生は2022年9月7日以来ですが、継続時間が20分以上となる火山性微動を観測したのは2018年11月22日以来です。

火山性微動の発生以降、62-2火口付近のごく浅部を震源とする振幅の小さな火山性地震がやや増加しており、5日12時までの地震回数は合計63回となっています。

監視カメラによる観測では、62-2火口の噴煙の状況は雲のため詳細は不明ですが、微動が発生していた時間帯に雲の切れ間から確認できた範囲では、噴煙に特段の変化は認められませんでした。その後、5日03時から07時に観測した際の噴煙の高さは最大で火口縁上300mで、微動発生前と比べて状況に変化はありませんでした。

○活動評価

十勝岳では、2021年頃から62-2火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、微弱な発光現象や一時的な地震増加、微動発生や地震増加と同期した傾斜変動が時々観測されていますので、今後の火山活動の推移には注意する必要があります。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

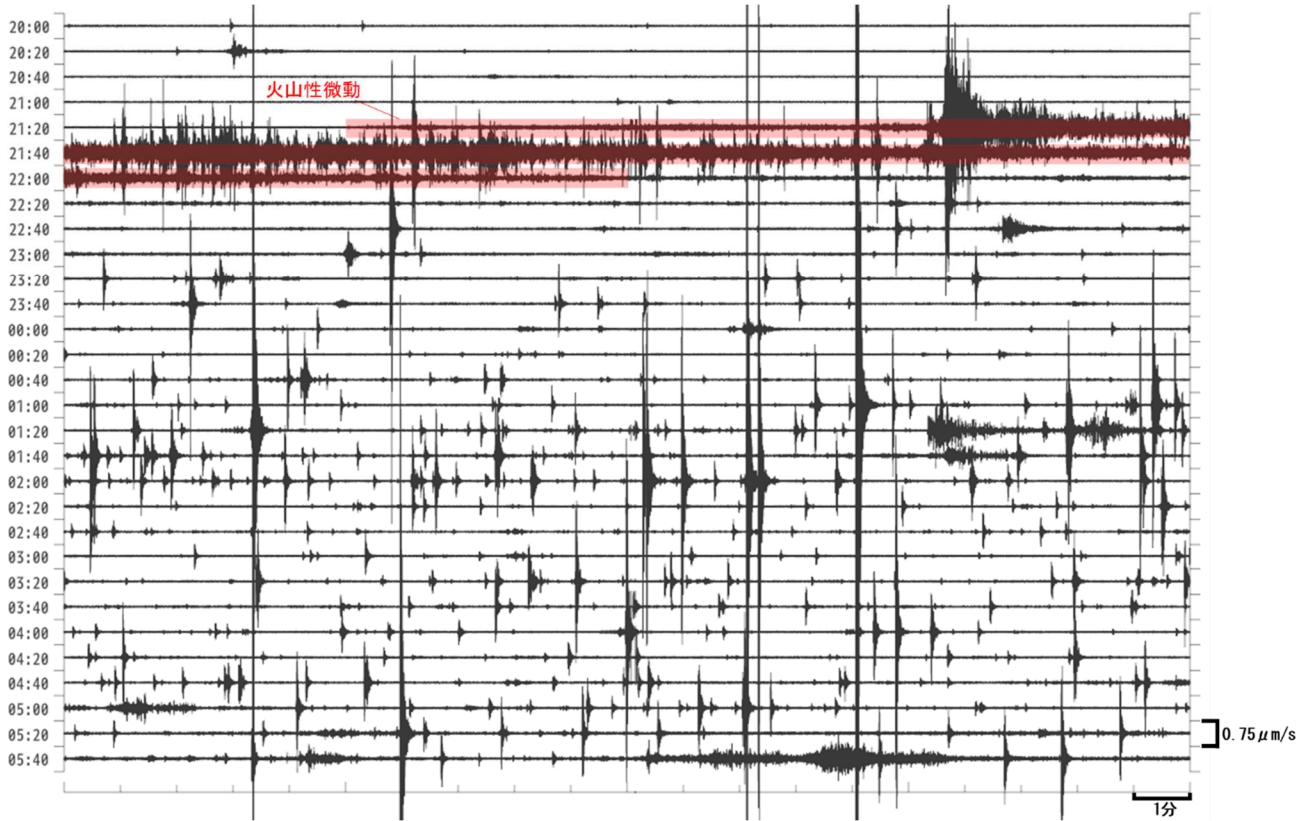


図1 十勝岳 避難小屋東観測点の上下速度波形（7月4日20時～5日06時）

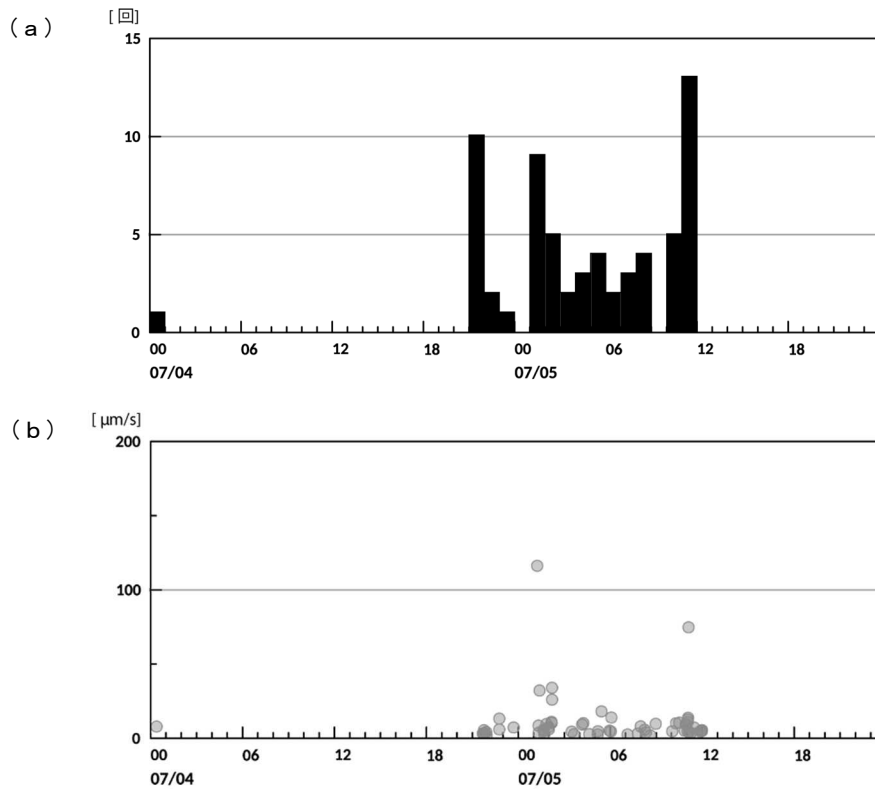


図2 十勝岳 火山性地震の発生状況（7月4日00時～5日12時）
(a) 特別地震回数 (b) 避難小屋東観測点上下成分速度の最大振幅

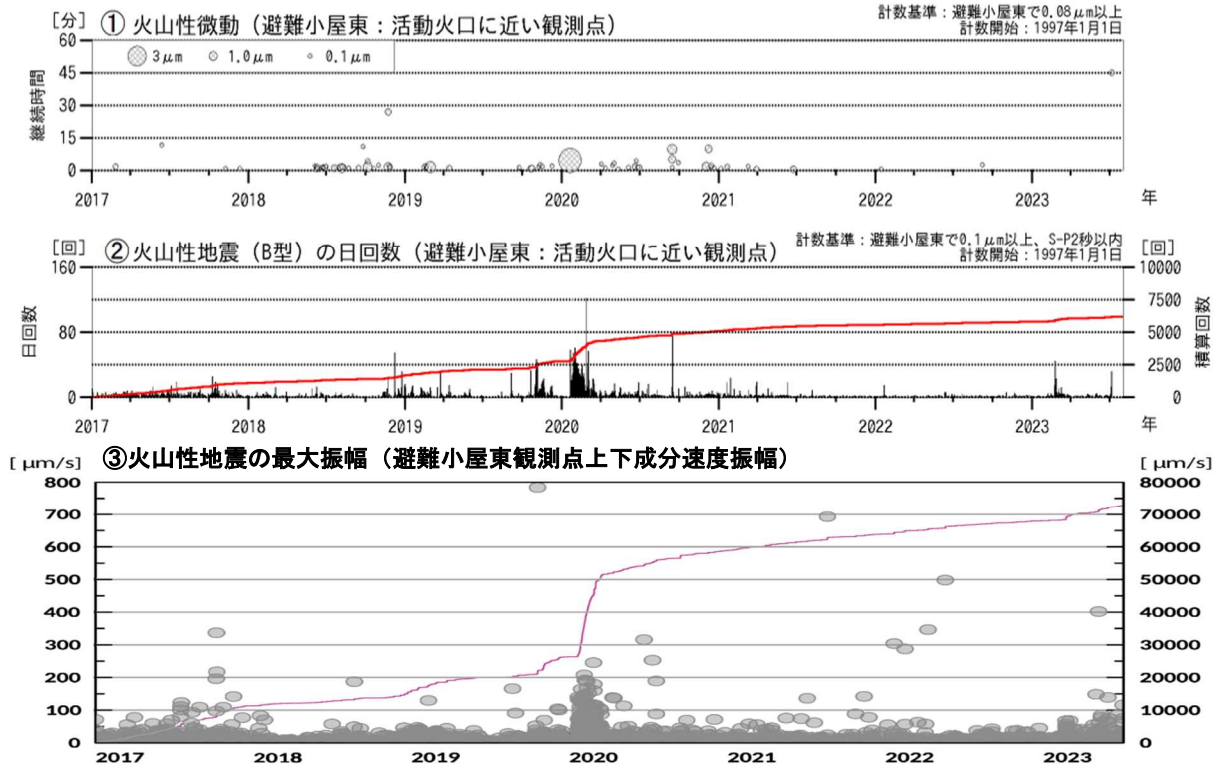


図3 十勝岳 火山性微動及び火山性地震の発生状況（2017年1月1日～2023年7月5日12時）

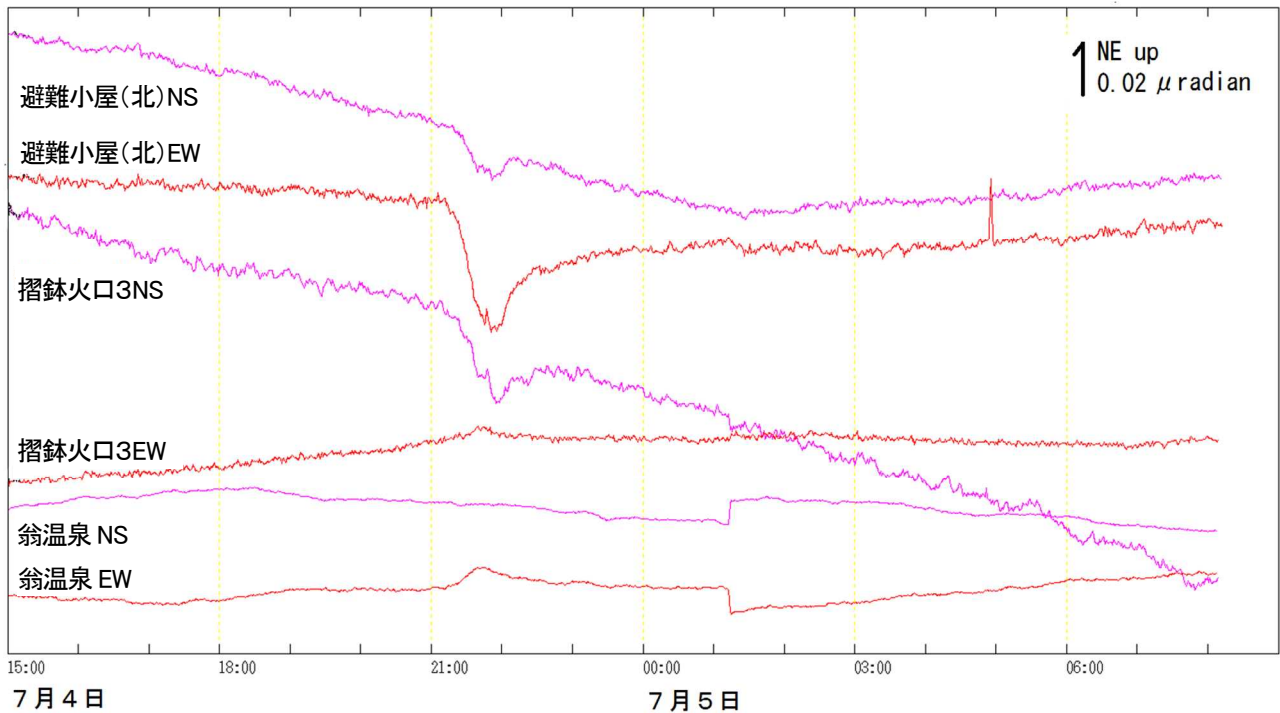


図4 十勝岳 7月4日の火山性微動前後に観測された傾斜変動（7月4日15時～5日08時）

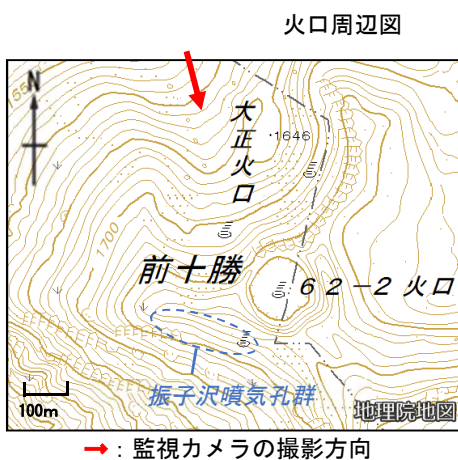


図5 十勝岳 北西側から見た火口周辺の状況（白金模範牧場監視カメラによる）及び火口周辺図

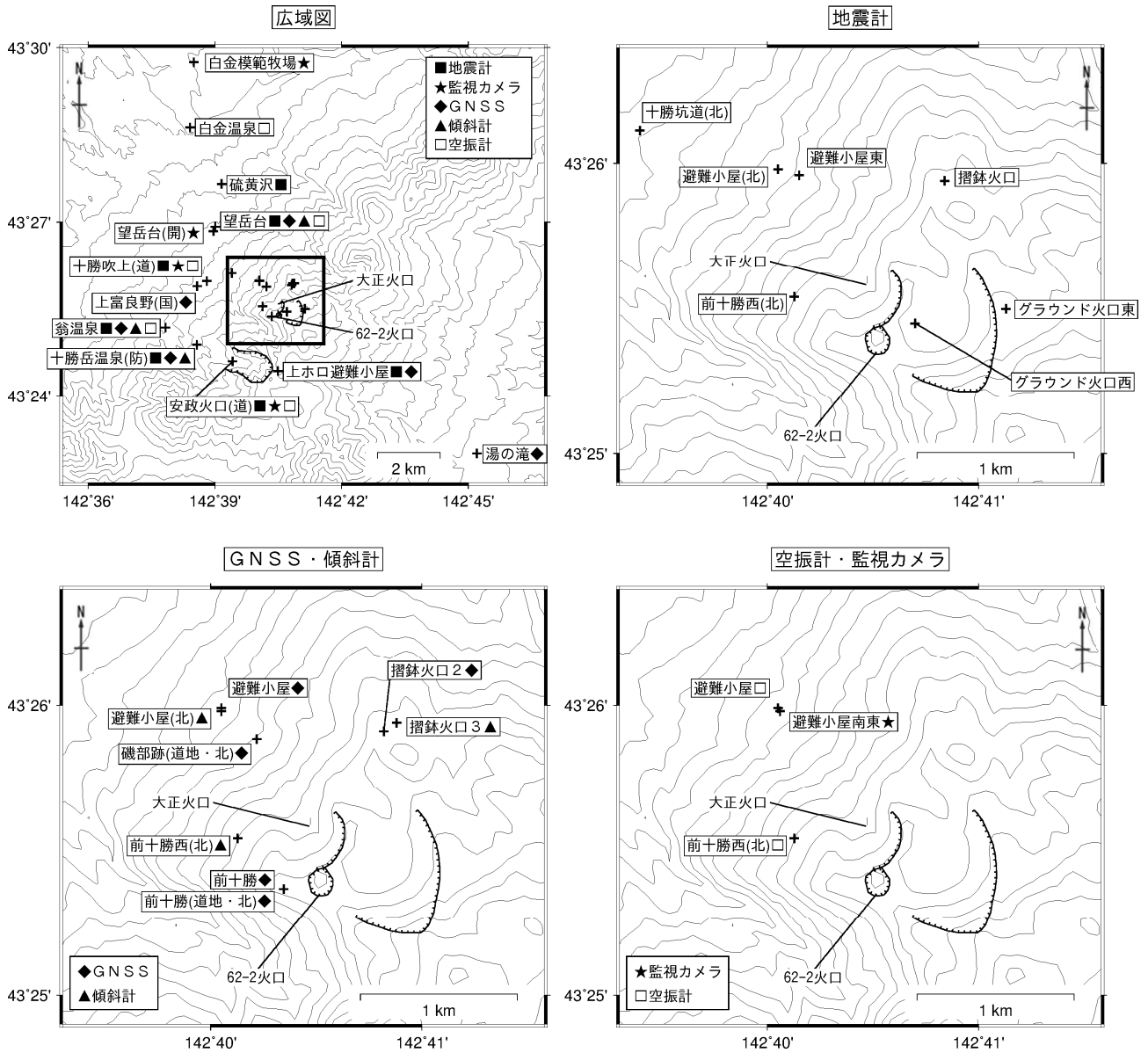


図6 十勝岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で示した領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(開) : 国土交通省北海道開発局

(国) : 国土地理院

(北) : 北海道大学

(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所

(道) : 北海道

(道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所